

# 『聖經直解』と『古新聖經』による聖書翻訳の継承関係

——4福音書の「マタイによる福音書」を中心に

余 雅 婷

Inheritance between *Shengjing zhijie*, and *Guxin Shengjing*

—mainly of part of the Matthew Gospels

YU Yating

Emmanuel Diaz (1552–1610) translated *Shengjing zhijie* (聖經直解) in the first year of the Qing Dynasty (1636). He translated a part of the four Gospels from the original Latin text into Chinese, and added notations. Around 1800, the Jesuit Louis Antoine de Poirot (1735–1813) translated the Old and New Testaments, and collected them in the text *Guxin Shengjing* (古新聖經). He also used the *Latin Vulgate Bible* and translated into the vernacular Chinese. This paper compares the parts of Matthew Gospel in the *Guxin Shengjing* and its predecessors, *Shengjing zhijie*, and examines their commonalities and differences in terms of vocabulary and style.

キーワード：『ブルガタ訳聖書』、『聖經直解』、ディアス、『古新聖經』、ポアロ

## はじめに

近代の中国では、キリスト教宣教師によって数多くの漢訳聖書が著されており、とりわけ、ディアスの『聖經直解』が初期漢訳聖書の代表として知られている。李夷学の『古新聖經殘稿』<sup>1)</sup>によりポアロの漢訳版『古新聖經』が発見されて以降、同書についても注目が集まり始めた。更に2013年に内田氏によりポアロの満漢版『古新聖經』が発見されたことにより、新たな研究課題が提示されることとなった。

清崇徳元年(1636)に、イエズス会宣教師ディアス(Emmanuel Diaz 陽瑪諾1552–1610)が4福音書の一部をラテン語原典から中国の文言に翻訳し、それに注釈を加え、『聖經直解』として出版した。またそれは白話ではなく、文言を用いて翻訳したものである<sup>1)</sup>。その後、清嘉慶五年(1800)前後、同じくイエズス会の宣教師であるポアロ(Louis Antoine de Poirot 賀清泰1735–1813)<sup>2)</sup>は『旧約聖書』及び『新約

1) [清] 賴費之(著), [民國] 馮承鈞(譯):『在華耶穌會士列傳及書目』北京:中華書局, 1995年, p113。

2) 徐宗澤『明清間耶穌會士譯著提要』1958, p18–20。

聖書』を翻訳し、それを『古新聖經』としてまとめた。<sup>3)</sup> 同じくラテン語でブルガタ訳聖書を底本として、『古新聖經』は北京俗語を使い翻訳された<sup>4)</sup>。

そこで、本稿では『古新聖經』と先行の『聖經直解』の関係について、重なっている部分の4福音書の「マタイによる福音書」を比較し、語彙と文体の特徴から考察を試みるものである。以下は、二者の『新約聖書』に対する翻訳の差異について検討を行う。

## 一、『聖經直解』と『古新聖經』の底本ラテン語『ブルガタ訳聖書』

ウルガタ聖書とは4世紀末にエウセビウス・ソポロニウス・ヒエローニウムス（ラテン語名：St. Hieronymus；英語名：Eusebius Sophronius Hieronymus, C340年頃－420年、略称：聖ヒエロニムス<sup>5)</sup>）が翻訳したラテン語訳聖書、印刷された最初の刊本（1455年ごろ；cf. Gutenberg Bible）を指す。なお、キリスト教は324年にローマ帝国の国教となっていた当時、聖書はヘブライ語、ギリシャ語および荒削りの古いラテン語訳（the Old Latin version）で流布していたが、聖ヒエロニムスはそれを編纂・校訂し、聖書全文をラテン語に翻訳したのである。当初は教会内部からの反発もあり、ヒエロニムスのラテン語ウルガタ聖書は、長年にわたりローマ教会から中傷されていた。ところが、採用の時期は地方によって異なるが彼のラテン語訳は次第に広がり、1546年のトリエント公会議にカトリック教会の公式聖書としてのラテン語訳聖書の権威を確立した。7世紀にはローマのカトリック教会で用いられる正式なラテン語聖書となった<sup>6)</sup>。そのため、普及版 *vulgata*、英語では *vulgate* と呼ばれるのである<sup>7)</sup>。

## 二、ディアスの『聖經直解』

### 2.1 『聖經直解』の概要

明代1555年から、カトリックのイエズス会は中国マカオで布教活動を開始した。そして、中国に滞在

3) 李爽学『古新聖經残稿』（中華書店、2014年）p24-28。

4) 鄭海娟『賀清泰〈古新聖經研究〉』、北京大学中文系博士論文（2012）p13。

5) ダルマティアのストリドンに生まれ、両親は裕福なキリスト教徒で、ヒエロニウムスが地元の学校で初等教育を修めると、直ちに彼をローマに送り出し、高名な文法学者であるアエリウス・ドナトゥスのもとで古典文学と文法学を学ばせた。生年については諸説ある。Kelly, J.N.D., *Jerome: His Life, Writings, and Controversies* (London: Duckworth, 1975) : 337-39参照。

6) Loewe, Raphael. "The Medieval history of the Latin Vulgate". *The Cambridge History of the Bible*, ii, *The West from the Fathers to the Reformation*. Lampe, G. W. H., ed. London, Cambridge University Press, 1969, p. 1021-154. なお *vulgata* は民衆を意味する *vulgus* という語から派生した。

7) ヒエロニムスは、ヘブライ語の『旧約聖書』とギリシア語の『新約聖書』をローマの一般民衆が読めるラテン語に翻訳したのですが、この一般民衆向けに翻訳されたラテン語聖書のことを『ウルガタ訳の聖書』と呼んでいる。聖ヒエロニムスがウルガタ訳聖書を翻訳した事業は、マルティン・ルターのラテン語聖書の「ドイツ語訳」へとつながる事業であり、ヒエロニムスとマルティン・ルターがいなければキリスト教の正統教義を知識人と一般民衆に効果的に布教することは不可能だったと思われる。ラテン語のウルガタには「公布されたもの」という意味がある。

する宣教師はまず中国語を習得するべきという活動方針を固持した。さらに、イエズス会の多くの宣教師によって中国語による翻訳書や著作が出版された。

清万暦32（1604）年に宣教師マテオ・リッチ（Matteo Ricci 利瑪竇 1552-1610）が中国語による教理問答書『天主實義』を出版した。明末の中国の知識人のためにキリスト教教理を論じた書物で、上下2巻から成る。中国人学者のために西洋のキリスト教学者が答えるという体裁をとり、神による創造から論を起して、キリストによる救いに及んでいる。それから約30年後、清崇徳元年（1636）に『聖經直解』を北京で出版した。本書は15巻本で出版され、ラテン語ブルガタ訳聖書（四福音書部分）の中国語への抄訳とその注釈からなる。これは『聖經直解』の冒頭で「後學 陽瑪諾譯」（後進の学者ディアスによる翻訳）と著者の名が記されていることから明らかである。また、「同會 傳 汎際訂」（同じイエズス会の会士フルタード、フロスによる校訂）とあり、この抄訳がディアスのものであることを証している。そして、「値會 傳 汎際准」（イエズス会の会士フルタードの「出版許可」があり）が最後の部分に付いている。さらに、本文の冒頭から「極西耶穌會士陽瑪諾譯」（遙か西洋のイエズス会士ディアスによる翻訳）と読める。

## 2.2 『聖經直解』の構成

第一巻の冒頭部分に「天主耶契利斯督周歲主日聖經直解」というタイトルがあり、第1巻から第14巻までは「主日」や「瞻礼」に関する抄訳など聖經を詳細に解説している。

- 第一巻 吾主聖誕前第四主日 第三主日 第二主日 第一主日
- 第二巻 吾主聖誕後主日 三王來朝後第一主日 第二主日 第三主日  
第四主日 第五主日 第六主日
- 第三巻 封齋前第三主日 第二主日 第一主日
- 第四巻 封齋後第一主日 第二主日 第三主日 第四主日 第五主日
- 第五巻 封齋後第六主日
- 第六巻 耶穌復活本日 耶穌復活第一副瞻禮 第二副瞻禮 第三副瞻禮  
耶穌復活後第一主日 第二主日 第三主日 第四主日 第五  
主日 耶穌升天後主日 聖神降臨本主日 聖神降臨後 第一副  
瞻禮 第二副瞻禮 天主三位一體主日
- 第七巻 聖神降臨後第一主日 第二主日 第二主日 第三主日 第四主  
日 第五主日 第六主日 第七主日 第八主日 第九主日 第  
十主日 第十一主日 第十二主日
- 第八巻 第十三主日 第十四主日 第十五主日 第十六主日 第十七主  
日 第十八主日 第十九主日 第二十主日 第二十一主日 第  
二十主日 第二十三主日 第二十四主日
- 第九巻、第十、第十一、第十二、第十三、第十四巻  
聖母往獻耶穌 聖瑪第亞宗徒 聖灰禮儀 聖母領報 勝枝禮儀

耶穌建立聖體大禮 耶穌受難 耶穌復活 復活第一、第二、第三  
副瞻禮 耶穌復活現慰聖母 聖斐理伯聖雅各伯二位宗徒 尋得  
十字聖架 耶穌昇天 聖神降臨 聖神降臨後第一、第二副瞻禮  
天主聖三 耶穌聖體 聖若望保第斯大誕日 聖伯鐸羅聖葆祿二  
位宗徒 聖雅各伯宗徒 建聖母雪地殿 聖勞楞佐致命者 聖母  
昇天 聖巴多爾祿茂宗徒 聖母聖誕 聖瑪竇宗徒兼聖史 建聖  
彌額爾大天神殿 聖西滿盛大徒二位宗徒 諸聖瞻禮 思念教中  
先人 聖諳德勒宗徒 聖母安胎 聖母望耶穌聖誕 聖多默宗徒  
耶穌聖誕 聖斯德望首先致命者 聖若望宗徒兼聖史 諸聖嬰孩  
致命者 立耶穌聖名 三王來朝耶穌

第1巻から第14巻の構成はカトリック年間の主日と祭日に関する部分から成る。最後の十五巻は目録である。『聖經直解』は『聖書』の4福音書の章と節の構成を変更していることが分かる。

聖經直解雜事之目録 天主 天主三位一體 天主聖父 天主聖子 天主  
聖神 吾主 吾主之名 聖體 祭 十字聖架 聖  
母 天神 魔鬼 土神 靈 明意 天理 思  
察 欲司 主長 心 邪情 懼 肉軀 五司 三  
教 聖教 聖經 聖會 主日 瞻禮日 宗徒 伯  
鐸羅宗徒 葆祿聖徒 聖若翰宗徒 聖史 聖人  
致命者 若翰保弟斯大 若瑟聖人 亞黨元祖 司  
祭 教友 善人 善友 善師 德 信德 忘德  
愛德 天主愛人 人愛天主 愛人如己 愛仇 教  
友相愛 謙德 貞德 忍德 良善 和睦 孝德  
恕宥 勤德 恆德 節德 齋德 克己 神貧 身  
貧 濟貧 仁德 哀矜 痛悔 告解 贖捕罪 謝  
恩 真實 祈求 苦難 聖洗 割損 聖迹 化人  
隱士 夫婦 家主家僕 旅人 國王 孩提 神生  
神光 十誡 行 言 天主堂 罪惡 原罪 罪繇  
習慣 罪人 茹答 惡友 招人罪 阻人善 佞人  
譽言 證言 驕傲 姪慾 忿怒 饕惡 嫉妒 怠  
惰 奢侈 悋嗇 誹謗 閑惡 負恩 貪惡 偽德  
世樂 世財 世福 世貴 世務 世位 理民 世  
物 今世 人 人生 時 宴 墓禮 地理 地  
全無 刑罰 四末 死候 審判 天堂 地獄

従って、ディアスは聖書の4福音書から全訳せず、4福音書の総節数の4分の1の抄訳した<sup>8)</sup>。その中で「マタイによる福音書」の割合が一番多いため<sup>9)</sup>、本稿で「マタイによる福音書」を取り上げ、『古新聖經』対象比較する。

周知のごとく、新約は、イエス・キリストを通してすべての人に与えられる救いの契約（マルコによる福音書14:24）<sup>10)</sup>を指し示す。その中に、マタイによる福音書、イエスの家系の紹介から始まり、イエスの生涯において取上げ、同時にイエスの神祕的奇跡能力を記述。この福音書には28編から成り、構成は以下の通りである。

マタイによる福音書	編
1-2	イエスの誕生からナザレ定住まで
3-4	伝道活動に至るまでの準備期間
5-18	ガリラヤとその周辺での伝道、言葉と行為でメシアとしての働きを示す
19-20	エルサレムへの旅
22-27	エルサレムでの最後の数日
28	復活と伝道命令

その中で『聖經直解』に翻訳されていない編章は3、10、12、14、15、16、19、21と25編である。

### 三、ポアロの『古新聖經』

#### 3.1 『古新聖經』の概要

ディアスの中国訳聖書は、ラテン語『ブルガタ訳聖書』の4福音書からの抄訳でありながら、後期の漢訳聖書の参考底本であることが証明された<sup>11)</sup>。また、ポアロの『古新聖經』について、台湾の鄭海絹氏<sup>12)</sup>、王碩豊氏<sup>13)</sup>等は初期漢訳聖書の位置づけに関する研究を行っている。一方で、この両者の漢訳聖書に語彙や注釈など継続関係部分があったかどうかは、これまで確認されていない。

8) 聖書の4福音書全文の章と節の総数：「マタイによる福音書」28章1071節、「マルコによる福音書」16章678節、「ルカによる福音書」24章1151節、「ヨハネによる福音書」21章878節、合計3788節である。そして、『聖經直解』に翻訳されている総節：「マタイによる福音書」355節、「マルコによる福音書」37節、「ルカによる福音書」321節、「ヨハネによる福音書」291節、合計1004節である。

9) 4福音書の割合はそれぞれ「マタイによる福音書」35.3%、「マルコによる福音書」が3.7%、「ルカによる福音書」が32%、「ヨハネによる福音書」が29%。

10) マルコ14：24イエスはまた言われた、「これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。」

11) 塩山正純『初期中国語訳聖書の系譜に関する研究』（東京：白帝社、2013.2）p106-120。

12) Hai-Juan Zheng (2014) "The Relationship between Poirat's Chinese Bible and Chinese Translations of the Bible Made before and after It", Bulletin of the Institute of Chinese Literature and Philosophy.

13) Wang Shuofeng (2013) "Research on「Kuxinshengjing」of HeQingtai", The National Research Center of Overseas Sinology evolved from the Overseas Sinology Research Center at Beijing Foreign Studies University (BFSU), NO.2.

フランス人の賀清泰 (Louis de Poirot 1735-1814) が乾隆嘉靖年間に訳し残した『古新聖經』の残稿は、白話文訳本を集大成するものと評されていた。『聖經』(The Vulgate Bible) 全72巻中37巻しか訳し終えなかったが、北京俗語を代表とする中国通俗白話による翻訳は当時として画期的な試みである。

ポアロは清乾隆帝の時代にフランス人でありイエズス会の画家、通訳として宮廷で務めた。潘廷章 (Giuseppe Panzi, 1734年-1812年前)<sup>14)</sup> と共に乾隆時期のイエズス会の画家で、『廓爾喀貢馬象圖』の絵で知られている<sup>15)</sup>。

### 3.2 『古新聖經』について

ポアロによる『古新聖經』が、カトリックの公認聖書聖典であるブルガタ訳聖書からの抄訳である。全書は37巻からなり、第1巻から第27巻までが旧約聖書の部分で、第28巻から第37巻までは新約聖書の抄訳である。題名はそれぞれ以下の通りである。

#### 旧約聖書：第1巻-第27巻

- (1) 化成之經 (2) 造成經 (3) 救出之經 (4) 肋未子孫經
- (5) 第二傳法度經 (6) 第二傳法度經 (7) 若穌耶之經 (8) 審事官經並序 祿德經
- (9) 眾王經書並序：眾王經・卷一 (10) 眾王經・卷二 (11) 眾王經・卷三
- (12) 眾王經・卷四 (13) 如達斯國眾王經尾 增的總綱・卷一
- (14) 如達斯國眾王經尾 增的總綱・卷二 (15) 厄斯大拉經・上卷；厄斯大拉經・下卷
- (16) 若伯經並序 (17) 達味聖詠・上卷 (18) 達味聖詠・中卷 (19) 達味聖詠・下卷
- (20) 撒落孟之喻經 (21) 智德之經：智慧篇 訓道篇 (22) 厄格勒西亞斯第箇
- (23) 多俾雅經・如弟得經・厄斯德勒經 (24) 勝依撒意雅先知經
- (25) 達尼耶耳經並序 約那斯經 (26) 瑪加白衣經・上卷 (27) 瑪加白衣經・下卷

#### 新約聖書：第28巻-第37巻

- (28) 聖徒瑪竇萬日畧 (29) 聖史瑪爾谷萬日畧 (30) 聖史路加萬日畧 (31) 聖若望經並序
- (32) 諸徒行實經
- (33) 聖保祿書札：
  - 聖保祿諭羅瑪教友書札
  - 聖保祿諭各林多教友・第一札
  - 聖保祿諭各林多教友・第二札
- (34) 聖保祿書札：

14) Lorry SWERTS & Koen DE RIDDER, *Mon Van Genechten (1903-1974): Flemish Missionary and Chinese Painter. Inculturation of Christian Art in China* (Louvain Chinese Studies XI Leuven, 2002,) p18.

15) See the article of H. Cordier, "Guisepe Panzi, peintre italien à Pe-king (XVIIIe siècle)", *Mélanges offerts à M. Emile Picot* (Paris, 1913) p38.

與加拉漆亞札

與厄斐所札

與斐理柏城人札

與德撒落尼加札・第一札

與各落梭城人札

與德撒落尼加札・第二札

(35) 聖保祿書札：

與弟莫德阿書・第一札

與弟莫德阿書・第二札

與弟多書

聖保祿與斐肋孟寫的札

聖亞伯之札

聖伯多祿之札・第一札

聖伯多祿之札・第二札

聖如達之札

噯伯肋約斯

(36) 聖若望之札・第一札

聖若望之札・第二札

聖若望之札・第三札

(37) 聖若望默照經

上掲の資料の中で(28)編の「聖徒瑪竇萬日畧」から、(31)編の聖若望經並序までは聖書の4福音章の全訳である。

また、『古新聖經』は「『聖書』之序」から始まり、続けて「再序」と題し、白話（俗話）で『聖書』を翻訳している理由を述べている。

看書有兩種人，一樣是誠心愛求道理，並不管俗不俗、說法順不順，只要明白出道理來，足足穀了，也對他的意思。這樣的人可不是賢人麼？所該貴重的，他們也貴重。本來要緊的是道理，話雖是文彩光輝，若無道理，算甚麼呢？一口空虛氣而已！還有一樣人，看書未解悶。倘或是讀書的人，單留心話的意思深不深奧，文法合規矩不合；講的事情，或是從來沒有見過的，或是奇怪的，或是有多熱鬧的，一見沒有，或是書上沒有修飾，就厭煩了，拋下書無心看了。論這樣的人，一定不服我翻的《聖經》，但這不服的人原不圖取神益，而在悅耳目；若是這樣，一定顯出他們不狠明白懂得事情的來歷。怎麼說呢？《聖經》不是人自己本意作的書，是天主親自說，聖人記載的。天主若要用奇妙的文法，既然他無所不知，一定能作絕美文法的書，但他不肯！因為他的意思是為人寡學道理，行道理的事，所以特用俗語說了一件事，又重說，要高明的或愚蒙的都能容易懂得、也深深記得要緊的道理。

このように、序文の中でポアロは白話（俗語）を提唱し、「神の言葉」と「文法」の違いについて着目している。「神の言葉 Word of God」を大衆に周知させることが重要な目的であり、言葉を美しく巧みに用いた翻訳は求めておらず、「書き方がどうあれ、誠の道理を求めればよいではないか」と主張している。ただし、序文の内容を理解した上で、白話を提唱したポアロがここで強調している「文法」はもしくは“Grammar”ではなく、文章の「文体」“style”を指す可能性がかなり高い。

更に、ポアロがヒエロニムス（Eusebius Sophronius Hieronymus, 340年頃－420年）の夢を取り上げた。ヒエロニムスは聖書の翻訳を開始した頃、ローマ異教徒であるキケロの修辞に優れた作品を愛読し、意識的に文言を用いて訳出していた。しかし、その夢の中でヒエロニムスは、「お前はキケロの弟子ではあるがキリスト教徒ではない」と責められ、鞭打ちの刑に処された。

天主貴重的不過是人的靈魂，聰明、愚蒙天主不分別。為幾個懂文法的人，不忍耽擱了萬萬愚蒙的人，不懂文深的書，他們的靈魂也不能得便益。定不得有人說：「為欽佩天主的言語，也為合讀書人的心意，也不高，也不低，用中等的說法翻譯，使不得麼？有何妨礙呢？」答：「起初教內有一極高明的人，名叫熱羅尼莫，也這樣想。他幾十年看古時博學人的書，後頭覺得外教的人輕慢《聖經》，因為話平常，說法太俗，定了主意要光榮『聖經』，挑選西瑟落作的書，以他為模樣，照他的高文法翻譯《聖經》。已經動手，不料一夜睡臥夢寐之中，天神執鞭顯現，責備他，用鞭渾身上下亂打。一面打，一面譏笑說：『你是的門第，我們特來酬報你。』」

以上のことから、ポアロが意識的に白話を用いたのは、『聖書』を一般大衆に一層広めたいという意図が見え隠れするのである。

#### 四、両者のタイトル、本文の語彙と注の比較

##### 4.1 タイトル

『聖經直解』と『古新聖經』<sup>16)</sup>における「マタイによる福音書」のタイトルは次の通りである。

書名	聖經直解	古新聖經
マタイ	經聖瑪竇	聖徒瑪竇的萬日晷

ディアスは聖瑪竇（マタイ）の前に「經」を付け足している。『聖經直解』「第一卷」の『聖書』に関する記述より、彼の「經」に対する考え方が読み取れる。以下の通りである。

聖經原文謂之聖萬日晷。譯言福音。乃天主降生後，親傳以示世人者。

經載聖賢有言。行德之路最難。

16) 李爽学『古新聖經殘稿』を参考。



『聖經直解』においては、「聖經（原文謂之𨋖萬日略、譯言福音）」となっており、天主は誕生後、自ら世の人々を導いた。「經」は天主の言行や教えを記しているが実行するのは非常に困難である。「𨋖萬日略」と「福音」がイコールの関係になっていることがわかる。そこで、「𨋖萬日略」が何を意味するのか調べてみると、ラテン語の“evangelium”（福音）の音訳「𨋖（e）萬（van）日（ge）略（lium）」であると考えられる。ただし、ここでは「聖經（英語：Bible）」＝「𨋖萬日略（evangelium）」＝「福音（英語：Gospel）」となっているので、この問題については別途検討が必要であろう。

一方、『古新聖經』において、

（前略）用如德亜話紀了此經、名萬日略、此名恰好。若解萬日畧的意，即福音」（『聖徒瑪竇的萬日畧』序）

これは、「萬日略」が「福」の意味として使用されている。ただし、同書の篇名が『聖徒瑪竇的萬日畧』となっていることから、「萬日略」は「福音」の意味としても使用されていることがわかる。また、「用如德亜話紀了此經、名萬日略」とあることから、「萬日略」もラテン語の音訳であると考えられる。しかし、「𨋖萬日略」と「萬日略」がどちらもラテン語の音訳であるとする、両者の関係性が問題となる。そこで、「福音」のラテン語である“evangelium”について考えてみると、この語は『聖經直解』において示したように、四音節から構成されていることがわかる。つまり、音訳の精度だけで言えば、『聖經直解』の方が原音に忠実なことがわかる。では、『古新聖經』が「福音」の音訳として使用する「萬日略」がどのようにして選択されたのか考えてみると、使用している漢字が三文字とも一致していることから、『聖經直解』の「𨋖萬日略」を意識したことは間違いないと考えられる。これは、「萬日略」が“evangelium”の音訳としては意味を成していないことから裏付けられる。

#### 4.2 本文の語彙

まず、聖書文を構成する単位である単語を中心に、事象に深い関わりを持つ聖書の人物と植物の語彙がどのように中国語に翻訳されているのかを対照比較する。なお、『聖經直解』を【聖】、『古新聖經』を【古】、「マタイによる福音」を【マ】と省略した。

## (I) A-C:「マタイによる福音書」の人物名

A: 同一	達味、耶穌基利斯督、依撒、達瑪耳、祿德、撒落孟(如德王)、亞撒、亞滿、若瑟、瑪利亞、耶穌(基利斯督)、黑落得、每瑟、瑪丹
B: 同音異字	【聖】 露德、亞境
	【古】 祿德、亞敬
C: 類似	【聖】 雅各、如達、匝郎、達瑪、厄斯鸞、博阿斯、亞家斯、瑪納色、亞作
	【古】 亞各伯、如達斯、匝拉、達瑪耳、厄斯隆、玻何茲、亞加茲、瑪那斯、亞作耳

## (II)

植物 【マ】 7:16節	【聖】 蘊誰摘葡萄於荊棘、無花果於蒺藜
	【古】 從荊棘能收葡萄? 從蒺藜能摘無花果?

## (III)

八福の教え	【聖】	【古】
【マ】 5:3-10節	<p>神貧者乃真福, 其以得天上國。</p> <p>良善者乃真福, 為其將得安土。</p> <p>泣涕者乃真福, 為其將受寬慰。</p> <p>嗜義如飢渴者乃真福, 為其將得飽邀飫。</p> <p>哀矜者乃真福, 為其將蒙哀矜。</p> <p>心淨者乃真福, 為其將得見天主。</p> <p>和睦者乃真福, 為其將為天主之子。</p> <p>為義而被窘難者乃真福, 為其已得天上國。</p>	<p>神貧者乃真福, 因天國是他們的。</p> <p>良善者乃真福, 因必得安土。</p> <p>泣涕者乃真福, 因必得安慰。</p> <p>嗜義如飢渴者乃真福, 因要得飽飫。</p> <p>哀矜者乃真福, 因其(已)必蒙哀矜。</p> <p>心淨者乃真福, 因其將得見天主。</p> <p>和睦者乃真福, 因其名為天主之子。</p> <p>為義而被窘難者乃真福, 因其將得天上國。</p>

(II) のように、【マ】 7:16節におけるいばら、あざみ、ぶどう、いちじくの翻訳語彙は【聖】と【古】すべて一致している。

また、「マタイによる福音書」の5章から7章までの内容は「キリスト教倫理の最高峰」とも呼ばれるイエスの「山上の説教」の有名な箇所である。そして、【マ】 5:3-10節は、「幸い」についての教えで、「八福の教え」とも呼ばれる。上記に挙げたように、【マ】 5:3-10節「八福の教え」の前半の部分:

神貧者乃真福	「こころの貧しい人たちは、さいわいである」
良善者乃真福	「柔和な人たちは、さいわいである」
泣涕者乃真福	「悲しんでいる人たちは、さいわいである」
嗜義如飢渴者乃真福	「義に飢えかわいている人たちは、さいわいである」
哀矜者乃真福	「あわれみ深い人たちは、さいわいである」
心淨者乃真福	「心の清い人たちは、さいわいである」
和睦者乃真福	「平和をつくり出す人たちは、さいわいである」
為義而被窘難者乃真福	「義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである」

上掲の資料から、【聖】と【古】とはすべて一致していることが分かる。また、後半の部分によると、【聖】の抄訳が“其”と“為”を使用されている。一方、【古】の抄訳は“因”が使用されている。ここ

では両者の本文が概ね一致している。そのほかにも、語句や一部の表現は異なるものの基本的な構文は一致していることが分かる。

#### 4.3 両者の注について

前述のように、『聖經直解』は、ディアスがラテン語ブルガタ訳聖書を底本として、四福音書を中国語に抄訳したものである。『古新聖經』も翻訳者のポアロがブルガタ訳聖書を底本としていることが、先行研究によって指摘されている。同じくラテン語ブルガタ訳聖書を底本とする両者とも注釈が添えられている。『聖經直解』では本文の中で使用されている語句などの説明がされ、本文から割注へ文脈が続く表記形式である。そして、『古新聖經』では本文の後に割注で言葉の説明を掲げる。このうち、『古新聖經』における注釈を見ると、『聖經直解』の内容と若干の説明を置き換えている箇所が多々見られる。調査の範囲では61例であり、

章	1	2	4	5	6	8	9	11	13	18	20	22	23	24	28
数	3	3	5	7	3	2	2	4	6	2	5	4	1	13	1

代表例は以下の通りである。

注釈内容	【聖】	【古】
【マ】 4.1	神：即天主第三位	說的聖神是天主第三位
4.2	魔：魔者原無形體，亦非由人死而變益，天主出造天神甚眾。有犯傲者於是天主... 首謂之路祭弗爾	魔：此魔大約是路濟弗爾
13.24	天國：指今世聖教會言	天國：聖教會名為天國
13.31	芥種：吾主聖教也。加理勒亞等鄰方接生芥，高茂異他國	芥種：聖教會小如芥子，漸往外開闊。西里亞國茶芥菜能這樣長，別方不能
13.35	先知之言：先知，達未得	先知的預言：這先知即達味
20.2	先請者多簡者寡：家主，天主也。葡萄林，指聖教公會。傭者，傳教師也	請者多選者寡：家主是天主，葡萄園是聖教會，未修葡萄園傭的人，是天主世世遺的多聖兼才德士
22.2	國王，天主聖父也；國嗣，天主聖子也；娶親，其降生而取人性也；婚席，天堂真福也	天主立己聖教會，也脩天堂永福與奉教人，就如一王與親子脩婚筵

上に挙げたように、「神」、「天国」、「芥種」などは聖書において重要な概念である。両者の訳語は大筋では変わらないものの、『古新聖經』が『聖經直解』に若干の語彙を捕って文意をより分かりやすくした箇所も多々見られる。

#### おわりに

本稿では、『聖經直解』と『古新聖經』の抄訳を比較することにより、両者の関係性について検討してきたが、ポアロが『古新聖經』を著述していた当時、通訳として宮廷で務めていたため、ディアスの『聖經直解』に関する出版物が見られる可能性はかなり高いと考えられる。

また、原文及び注釈などを手掛かりとして検討を重ねれば、ポアロが何らかの形で『聖經直解』を参照した可能性が確実であったと考えられるため、『古新聖經』において「マタイによる福音書」の訳文を独自に検討したというよりも、ディアスの『聖經直解』を参照していった結果であると考えた方が、両者の関係性を説明する上で適切であると考えられる。

以上のことから、『聖經直解』と『古新聖經』は、直接的な関係はないものの、極めて密接な関係にあると言える。